

(株)ノーリツ、「団塊の世代」男性の家事について調査
50代男性の約7割が家事をする時間が「多くなる」と意欲的
しかし、理想の家事時間は「1～2時間前後」

～ 50代男性を中心にアンケート ～

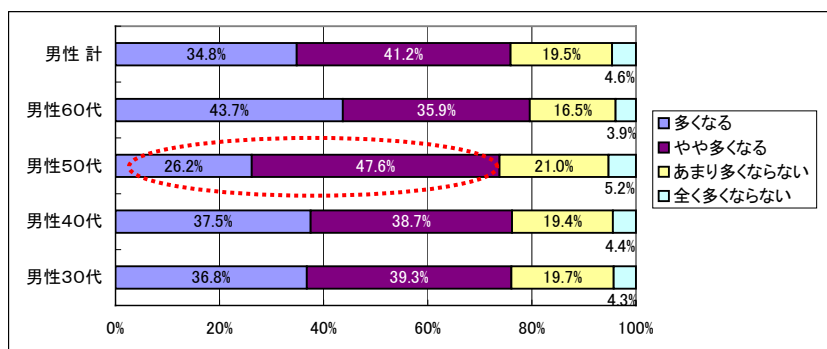
湯まわり設備メーカーの(株)ノーリツ(本社:神戸市、取締役社長:神崎 茂治、資本金:201億円、東/大証一部上場)は、2007年を皮切りに一斉退職が始まる「団塊の世代」にあたる50代男性の家庭での生活について、「家事」に的を絞って調査しました。(巻末に調査概要を記載)。

50代男性の家事への意欲度は？

まず、定年後家事を行う時間が増えるかどうかを聞いたところ、全年代男性の中で「全く多くなりません」、「あまり多くなりません」という両回答数のトップが50代でした。50代男性は、家事をしなくてもよいと考えている傾向が他世代より強いようです。

とはいえ、50代男性の約7割は家事時間が「多くなる」、「やや多くなる」と答えています。その理由の1位は「自由な時間が増えるから」でした。これまで仕事で家にいなかった分、定年後は、家事をしなければと考えている50代男性も比較的多いことがわかりました。

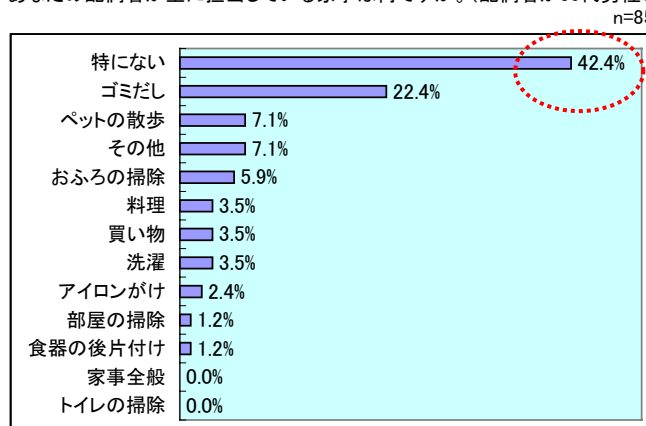
定年退職後、今よりも家事を行う時間が多くなると思いますか。 n=678



50代男性の家事実施状況は15分以下がほとんど

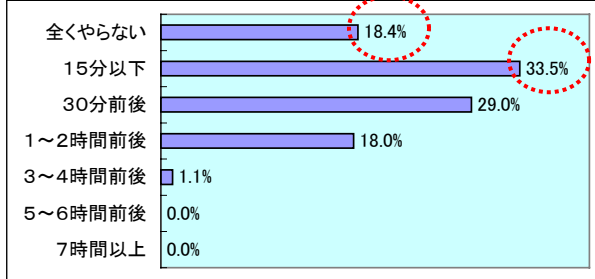
次に、50代男性の家事実施状況について調べました。50代男性が家庭内で担当している家事を女性に聞いたところ、「特になし」という回答が約4割でした。妻の側からすると、ほとんど家事は手伝ってもらえていないという認識です。逆に、男性に妻が担当している家事について聞くと、「家事全般」という回答が約8割でした。

あなたの配偶者が主に担当している家事は何ですか。(配偶者が50代男性の場合) n=85

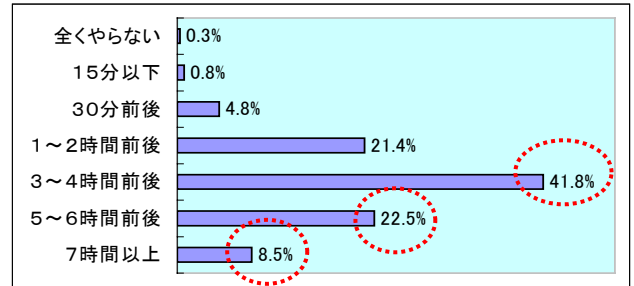


実際、家事に費やす時間は、50代男性で、「15分以下」が33.5%。さらに、「全くやらない」と答えた男性が5人に1人という結果が出ました。一方、女性は、「3時間以上」が約7割です。現在の家事実施状況では、男性と女性でかなりの違いがあるというのが実態のようです。

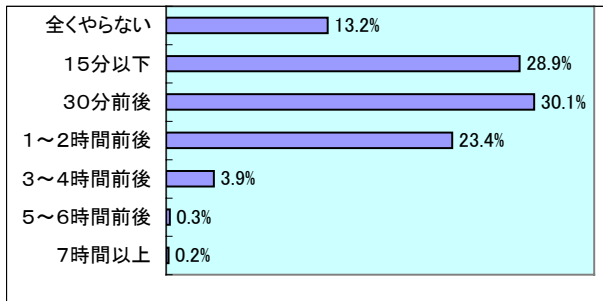
【50代男性】
あなたは現在、1日のうちに家事に費やす時間はどれくらいですか。n=272



【女性】
あなたは現在、1日のうちに費やす時間はどれくらいですか。 n=378

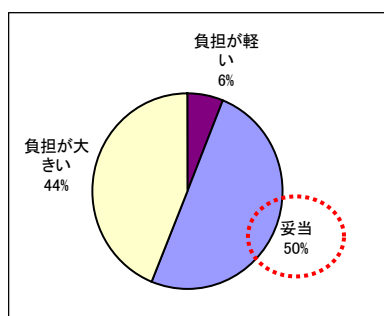


【男性】
あなたは現在、1日のうち家事に費やす時間はどれくらいですか。n=1015

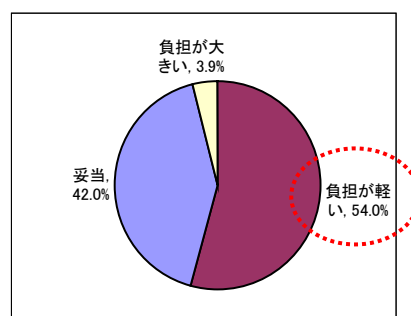


また、配偶者の家事負担についても聞いてみたところ、女性の半数以上が夫の家事負担を「軽い」と思っています。そして、**男性は妻の家事負担を「妥当」だと思っている人が多数派であることがわかりました。**この結果は50代男性に限らず、男性全体に当てはまります。まだまだ女性が家事を负担するべきという考え方が根強く残っているようです。

【男性】
あなたの配偶者の家事負担についてどう思いますか。
n=264



【女性】
あなたの配偶者の家事負担についてどう思いますか。
n=333

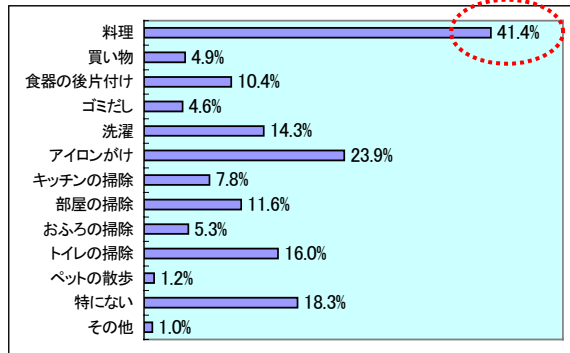


50代男性「苦手な家事」は「料理」

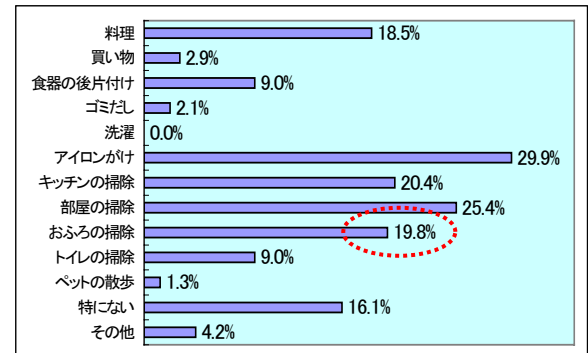
実態とは別に、「好きな家事」「苦手な家事」についても尋ねてみました。まず、「苦手な家事」についてです。**男性の多くが「料理」を苦手と回答しています。**苦手な理由を見てみると、「やり方がよくわからない」、「面倒くさい」がほとんどでした。

一方、女性の苦手な家事の1位は「アイロンがけ」。また、「おふろ掃除」を苦手と答えた女性が19.8%いました。この数は、偶然にも「おふろ掃除を夫にやってほしい」と答えた女性の数と重なりました。家事全般をこなすには相当な体力が必要です。体への負担が大きいおふろ掃除だからこそ、力のある夫にお願いしたいと考えている女性が多いようです。

【男性】
あなたが苦手な家事は何ですか。 n=1015 (複数回答)

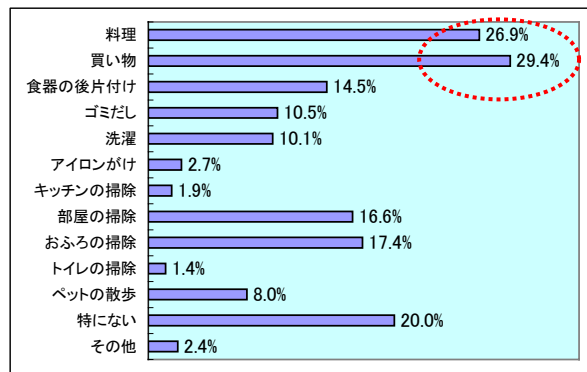


【女性】
あなたが苦手な家事は何ですか。 n=378

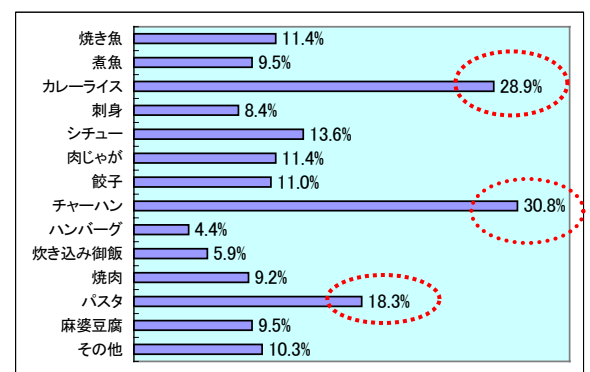


次に、「好きな家事」についての回答です。男性の好きな家事の一位は「買い物」で、その次が「料理」でした。ちなみに、料理が好きと答えた男性に得意料理を聞いたところ、トップ3は、「チャーハン」、「カレーライス」、「パスタ」でした。「チャーハン」、「カレーライス」はいずれも「男の料理」の定番といわれていますが、そのことが、今回の調査でも明らかになりました。また、買い物に関しては、家計を気にせず自由に好きなものを選んで買うことが単純に楽しいのかもしれない。

【男性】
あなたが好きな家事は何ですか。 n=1015



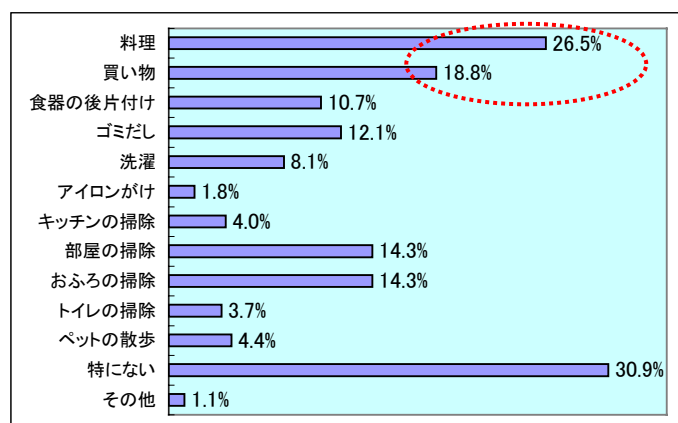
【男性】
得意な料理は何ですか。 n=273



50代男性は「料理」、「買い物」に関心

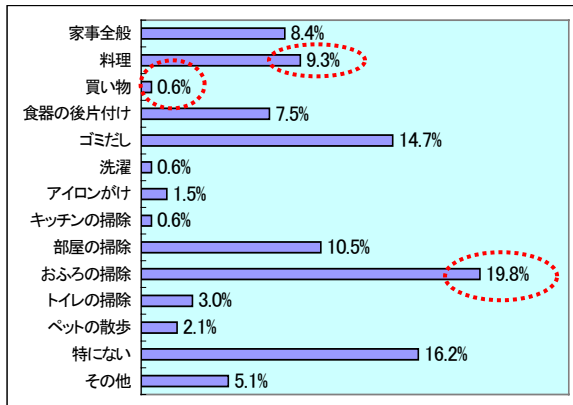
最後に、今後の家事実施動向について調べました。50代男性が今後担当してみたいと思っている家事は、「料理」(26.5%)や「買い物」(18.8%)。「料理」を苦手と答えた男性が多かったにもかかわらず、挑戦してみたいと意欲的に考えていることがわかりました。

【50代男性】
あなたが今後担当したい家事は何ですか。 n=272

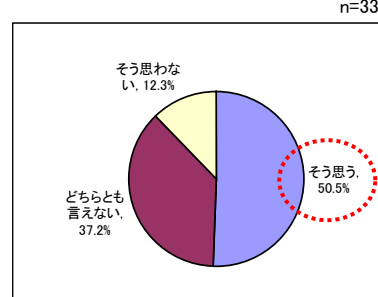


それに対し、妻が夫にしてもらいたい家事は「おふろの掃除」(19.8%)、「ゴミだし」(14.7%)でした。妻からすると、夫に「料理」をやってもらいたい人は、約1割弱。「買い物」に限っては、ほとんどいないに近いという結果(0.6%)でした。男性がやりたいと思っている家事を妻側は好意的には思っていないようです。しかし、もっと家事を分担したほうがよいと考える女性は約半数もいます。妻側の意見を推測すると、料理を行う台所は自分の領域として、夫といえども触れられたくないという意識から、買い物に関しては、自由な時間を夫に邪魔されたくないという意識があるようです。自分の領域を侵されない範囲で、おふろ掃除やゴミだしといった簡単な家事をまず優先的にお願いしたいようです。

【女性】
あなたが配偶者に今後主に担当してもらいたい家事は何ですか。n=333



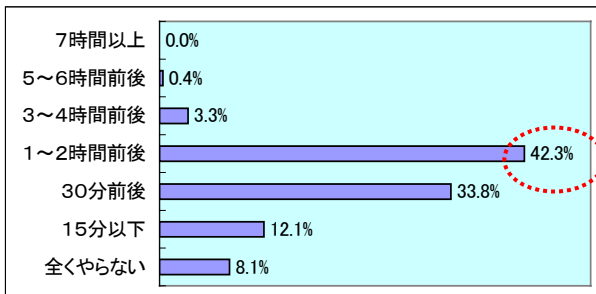
【女性】
あなたの配偶者は今後もっと家事負担をしたほうがよいと思いますか。n=333



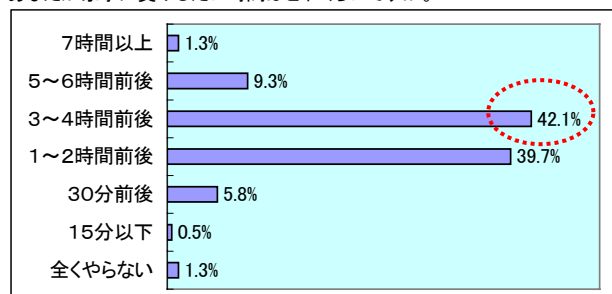
なお、50代男性の理想の家事の時間は、「1～2時間前後」で42.3%でした。ほとんどの人が現在15分以下しか家事をしていないことを考えると、50代男性もいまよりは時間をかけて妻の手伝いをしようとは考えているようです。それに対し、妻が家事に費やしたい時間は、「3～4時間前後」。現状とあまり大差はないようです。夫が定年を迎えても、どうせ家事は手伝ってもらえないだろうと、妻はあきらめている部分があるのかもしれない。

やりたい家事に挑戦してみたい夫と、簡単な家事でよいので、自分の領域を崩されない程度に手伝ってくれればという妻。今後、50代男性が定年を迎え家庭に戻ると、夫婦たちは互いの意識の違いに直面し、奮闘を始めるのでしょうか。

【50代男性】
あなたが家事に費やしたい時間はどれくらいですか。n=272



【女性】
あなたが家事に費やしたい時間はどれくらいですか。n=378



●アンケート調査概要●

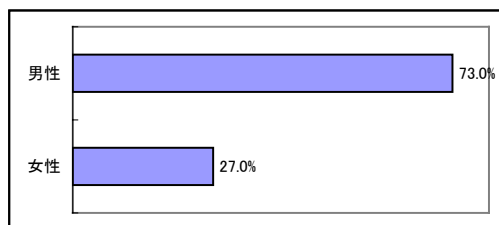
【方 法】 Web アンケート

【期 間】 2006年5月29日～6月5日

【対 象】 ノーリツサイトつかりコムねん「MYコムねん」会員の全国の全世代の男女

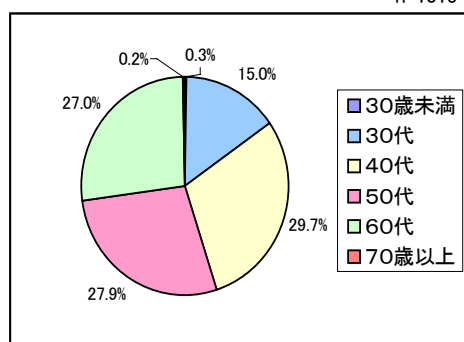
【サ プ ル 数】 1393 サンプル

●男女比 N=1393



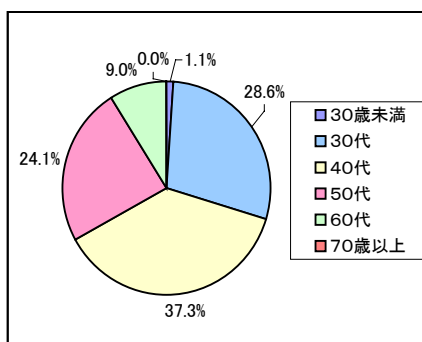
●男性

n=1015



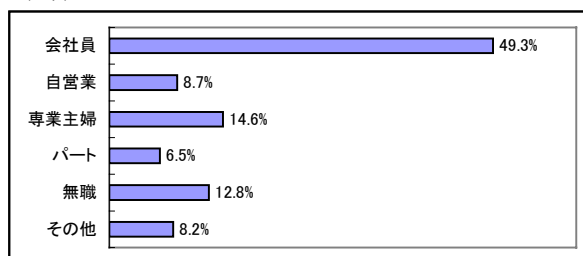
●女性

n=378



●職業

N=1393



ノーリツ、定年退職予定の社員を対象に「55歳ライフプランセミナー」を実施 定年後の3大目標は 「健康の維持・管理」「生きがいの充実」「やるべき目標確立」

団塊世代の大量定年が始まる、いわゆる「2007年問題」が現実味を帯びてきました。別添の資料では、団塊世代の定年後の家事に関する意識をまとめましたが、当社では、平成8年(1996年)から55歳を迎えた定年退職予定の社員を対象とした社内セミナー「55歳ライフプランセミナー」を実施、定年後の過ごし方について提起しています。

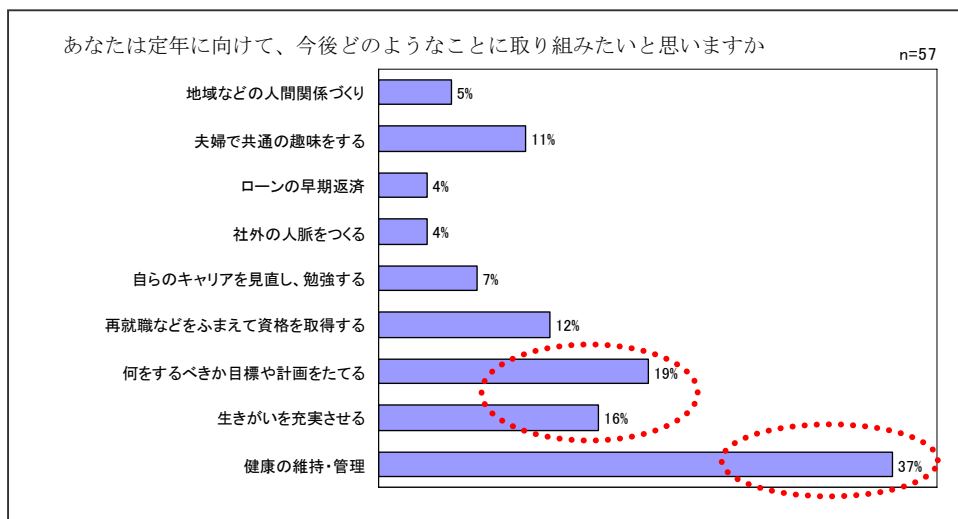
55歳ライフプランセミナーの内容は以下の通りです。

狙い	定年を5年後に控え、残る会社生活と定年後の人生について、生きがい・経済・健康という視点で考える機会を設け、定年後を含めた生活設計をたててもらおう	内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後のキャリア開発の課題 2. 職務キャリア開発 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己理解と能力の棚卸し ○ 環境変化への対応 3. 生活の仕方キャリア開発 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己啓発、家族関係、地域社会、余暇・趣味 4. 退職前後の経済生活設計 <ul style="list-style-type: none"> ○ 退職金制度・年金制度
対象	満55才を迎えたノーリツ社員		
時間	14時間(1泊2日)		
実施	年に1回、秋に総合研修センター(兵庫県明石市)で実施		

セミナー後行なったアンケートで参加者からは、健康管理や生きがい、経済面で多くの気付きがあったと寄せられています。また、**定年までに取り組みたいことについて聞いたアンケートでは、37%が「健康の維持・管理」をあげています。**老後をゆつくり楽しみたいという思いも、配偶者も含めた健康あつてのことであるからだと思います。そして高齢者の医療費負担の増加や、自らの親の介護という切実な問題も直面していることも理由の一つと考えられます。

次に多いのが「生きがいを充実させる」「何をすべきか目標や計画をたてる」といった回答で合わせて35%となりました。

また経済的な面として「資格を取得する」「キャリアの見直しをして勉強する」など、「健康」と「経済」のベースをしっかり作り、定年後の生きがいを見つけていく、というセミナーの主旨が伝わった回答が寄せられました。



高齢化が進み、当社としても定年退職予定者が本格的に増えていくという中で、企業としては中高年の活性化、個人としては退職後の生活へのソフトランディングを図ることを目的として開始しました。

セミナーの内容は定年を5年後に控え、残る会社生活と定年後の人生について、生きがい・経済・健康という視点で考え、定年後を含めた生活設計を充実させるための機会として企画しております。これまで延べ149名が参加し、2005年度までの間に約半数の72名が定年退職しました。

会社の創業期、そして日本経済の高度成長期を企業の成長とともに歩んできた世代の社員が会社組織を離れる時、比較的スムーズに家族や地域社会に適応しようとする一定の役割を果たしていると予想されます。

10年を経過した当セミナーですが、この間、年金支給年齢の引き上げや当社の賃金制度の変化でセミナー対象者が定年時におかれる経済的状況は大きく変化しました。さらに今年から高年齢者雇用安定法の改正で65歳までの雇用延長が法制化され、多くのサラリーマンにとって職業人人生が長期化することになりました。2007年度からは、自身のキャリアを認識しさらに磨きをかけることの重要性など職務キャリア開発の充実にシフトして行う予定です。

当社ではこのセミナー以外に、「40代ライフプランセミナー」「30代ライフプランセミナー」といった社内セミナーがあり、それぞれの年代に必要な生活設計を支援するセミナーを設けています。それらについても、従来の福利厚生的な内容からキャリア開発に重点をおいた内容に変更する予定です。社員と企業がお互いに依存せず、自主自律する関係を継続できることがそれぞれのプラスになることであると考えています。